

令和6年6月10日

報道関係者 各位

## 三会中学校への太鼓の寄贈について

標記の件について、下記のとおり三会中学校に太鼓の寄贈がありますのでお知らせいたします。

なお、詳細は別紙にてご確認ください。

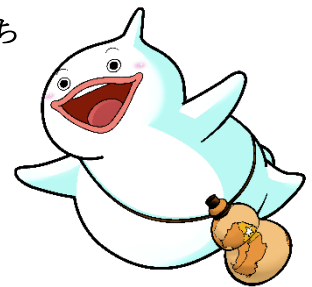
### 記

1. 日 時 令和6年6月14日（金） 13:00～13:30
2. 場 所 三会中学校 校長室
3. 概 要 三会中学校第24回卒業生（昭和46年3月卒業）である、吉田兼春様より太鼓の寄贈を受けるもの。  
（当日は寄贈者の吉田兼春様はご欠席であり、仲介人である吉田助継様が出席されます。）

未来へつなぐ島原らしさ 暮らし続けたい、訪れてみたい、魅力あふれるまち



担当：島原市学校教育課 指導班  
担当 原川 健之  
電話：直通 0957-68-5472  
E-mail：gakkyo@city.shimabara.lg.jp



島原守護神 しまばらん

## 三会中学校卒業生からの太鼓の寄贈について

島原市立三会中学校

1. 日 時 令和6年6月14日(金) 13:00～13:30
2. 会 場 三会中学校 校長室
3. 出席者
  - ・島原市立三会中学校 第24回 卒業生 吉田 助継 様  
(三会地区健青少年健全育成協議会 会長)
  - ・島原市立三会中学校 校長 種村 由美
  - ・島原市立三会中学校 3年生 数名(生徒会役員を中心に)
4. 流 れ
  - (1) 吉田会長あいさつ
  - (2) 贈呈(吉田会長から生徒へ バチの贈呈)
  - (3) 生徒代表お礼のあいさつ(校長お礼のあいさつ)
5. その他
  - ・寄贈に至った経緯等は「太鼓の寄贈について 響け!若い心に」を参照  
ください。(卒業生 吉田さん執筆)
  - ・御不明な点などございましたら、下記担当までお願いします。

担当

島原市立三会中学校

教頭 井手 宏暢

TEL 0957-62-3709

## 太鼓の寄贈について

響け！若い心に。

### 1 天保宮下太鼓とは

天保宮下太鼓の大太鼓は、天保4年(1833年 江戸時代後期)に作られ宮下地区(下佐波村)に伝承されてきた大太鼓である。

平成2年に宮下地区の観音寺で革が破れたままの大太鼓が発見され、宮下コミュニティ推進協議会によって革が張替修繕され、平成3年より協議会の役員や地域有志の方々により、太鼓教室が始まり、「天保宮下太鼓」と名付けられ、現在の天保宮下太鼓の活動に至っている。

先人の方達の意味を継ぐべく現在も伝統文化の継承及び青少年育成に努めている。

なお、この太鼓はこれまで平成2年とは別に、明治期に3回、大正期に1回、それぞれ革の張替修繕がなされた模様である。(太鼓の胴内にその旨が記載されていたとのこと)

### 2 会員数及び具体的な活動状況

小学生、中学生、高校生を含む約20名で編成され、県内外での演奏や国外遠征演奏(大人)等を実施中である。

ちなみに Jr.コンクール県大会にも出場している。支援した国名、回数等について現在確認中

### 3 関係者

(1) 寄贈者 : 吉田兼春、市内寺中町出身 68歳

○ 三会中学校第24回卒業生(昭和46年3月の卒業生)で 在校時臨時に編成された 応援団リーダー一部で指導的な役割を果たす。現在岐阜県岐阜市在住

○ 天保宮下太鼓代表

○ 職業 : 株式会社 サンセキ(住宅設備会社)役員

○ その他、地区の水防関係者としての活躍中。細部は確認中

(2) 寄贈受け者 : 島原市立三会中学校 校長種村由美

(3) 仲介者 : 三会地区青少年健全育成協議会長 吉田助継、寄贈者と同級生

### 4 今回の取材対応の経緯・主旨等

○ 三会中学校体育祭の応援合戦で太鼓の代わりにドラム缶を叩いていた場面を目にした OB が太鼓の寄贈を申し入れ、それを中学校として受け入れることになって実現

○ ふるさとから遠く離れた寄贈者のふるさとや母校に対する愛情が発露した一場面

○ これらの状況を地域住民に周知することにより、ふるさとを愛する心や見つめ直す機会を作為し、地域活性化等に寄与

○ 同時に掲載する同窓会投稿文とのコラボにより、広報効果を倍増

## 5 主として伝えたい事項

○ ふるさとや後輩を思う吉田兼春氏の愛郷心、母校愛 → 太鼓贈呈

○ 三会中学校第24回生としての強い絆等の発露の一場面 → 同総会投稿文参照

## 6 これまでの経緯

- (1) 吉田助継氏(仲介者)が青少年健全育成協議会長として三会中学校長から招待され、令和6年5月13日に三会中学校で実施された体育祭を見学した。

中学生の活動に感動した吉田氏が体育祭における生徒たちの活動状況をそれぞれ動画にて撮影した。

- (2) その後、吉田氏は、この動画を自分だけにとどめておくにはもったいないと思い、旧知の関係者に送信した。

動画を受信した吉田兼春氏(寄贈者)は、たまたま応援合戦で太鼓の代わりにドラム缶を叩いている場面を目にし、少し古いが使用していない太鼓を保有しているのもし必要であれば寄贈が可能な旨を仲介者に通報した。

- (3) 吉田助継氏(仲介者)は、5月15日に実施された青少年健全育成協議会の運営委員会終了後、参加していた中学校の校長先生と教頭先生にこれまでの経緯を説明するとともに、太鼓の写真を見てもらい、必要であれば寄贈が可能な旨を伝えたところ、寄贈していただければありがたいとの回答を得た。

- (4) これまでの状況を受け、5月18日(土)に実施された古希祝を兼ねた中学校の同窓会が開かれた際、出席していた吉田兼春氏(寄贈者)と中学校との間で太鼓を寄贈する方向で調整が進んでいる旨を紹介した。

その際、同級生からはそれは良いことだとの声が多数上がった。また折角だから島原新聞に掲載してもらったらとの声があった。

- (5) 吉田兼春氏(寄贈者)が岐阜に帰らなければならないことから、急遽日程を調整して5月20日(月)08:40頃、中学校を訪問して細部の調整等を実施した。

- (6) 吉田助継氏(仲介者)に6月2日(日)15:00頃吉田兼春氏(寄贈者)からラインがあり、発送したとのことだったので、天保宮下太鼓の由来、活動状況等について質問し、回答を得た。

また、この際、明日朝の挨拶運動時に校長先生に伝える旨返信した。

- (7) 吉田助継氏(仲介者)は、6月3日(月)08:00頃、校長先生にこれまでの経緯等を伝えるとともに、今後の対応を調整した。

また同日10:30頃、仲介者が島原新聞社を訪れ、新聞掲載等について調整した。

20:00頃、やっと飯田石田記者と連絡がとれ、今週は多忙で手が付けられないことから来週掲載してもう方向で調整した。

- (8) 吉田助継氏(仲介者)は、6月4日(日 12:00)頃、島原新聞社を訪れ、太鼓寄贈文や同窓会実施文の投稿等について調整した。同窓会の方は投稿であれば問題ないとのことだった。
- (9) 6月5日(水)午後、投稿文案を明君夫婦にチェックしてもらい修正して同級生ラインにアップ。多くの指摘があったので修正した。
- (10) 6月6日(木)島原新聞及び中学校と6月13日(木)13:00頃から13:30頃までの間に取材を受けることで調整した。校長先生、生徒代表、俺が関係者で俺がバチを生徒代表に渡す場面等を撮影したいとのだった。
- (11) 6月7日(金)10:00頃、石田記者から13日が都合悪くなったので取材時期を変更したい旨の電話があったので、14日(金に変更した。

なお、以前市政記者室に校長から投げたらとの話があったので、その可能性について確認